

<東北税理士会会長賞>

地域をよりよくするために

いわき市立中央台南中学校 二年 清水 晶子

私の家は、今年度隣組の組長になった。私は広報誌配付を手伝うことになったのだが、ある日、配付予定の市議会だよりを見ていたら、いわき市一般会計補正予算の新型コロナウイルス接種対策等費の項目に目が留まった。十八億円以上が計上されていて、この金額の大きさに驚いた。補正というのは何かを補ったり修正したりすることだから、元になる予算は当然もっと高いはずである。さっそくいわき市のホームページで調べてみたところ、今年度一般会計の新型コロナウイルス関連予算は約四十五億だと分かった。

お正月に親や親戚からお年玉を合計一万円程度もらい、月のお小遣いはもらっていない私にとって、四十五億円の新型コロナウイルス関連予算はすごく多いのか普通なのか、正直よく分からない程の金額だったので、更に予算の内訳を調べてみることにした。

私の予想では、ワクチン費用と、集団接種会場や医療機関の費用が主な支出かと考えていたが、ワクチン費用は国の負担で市の予算には入っておらず、それでも検査や公共施設の消毒費用、救急隊員の感染防止費用、そして接種券の発送など幅広い事業に対して、私の想像をはるかに超える費用がかかっていた。特に私たち子どもを守るための予算は重視されていると感じた。そしてこの予算の元になるのは、もちろん全て税金なのである。

今までの私は、税金のしくみについて学校で学んでいても、実際には商品に少しお金を追加して払う消費税しか納税に対する実感が持てなかった。今回、新型コロナウイルス感染症に関する予算に関心を持ったことで、私の両親をはじめ、働いている人たちが自分の想像よりもたくさんの税金を支払って、自分や地域の生活を支えているのだと理解できた。今回初めて両親それぞれの市民税と県民税の納税通知書を見せて

もらった。二人分を合計すると百万円を超えており、自分が買い物で支払う数十円の消費税とは桁違いの額だったので、かなり驚いた。ワクチン接種のたびに、一緒に接種する三歳年上の姉に

「これって、無料なの。」

と質問し、そのつど

「無料とは違うよ。お父さんとお母さんが働いたお金で結局は支払っているんだよ。」と、無料と自己負担なしの違いについて繰り返し説明されてしまう幼い私だったが、今度こそは目に見えない税の使い道が、心の目で見えるようになった。

税の使い道を意識できるようになってからは、新型コロナウイルスのことだけでなく、自然災害のニュースを見ても、ただ心配するのではなく、早く復旧して欲しいと考えるようになった。地理の授業で、災害への対応では公助・自助・共助が求められると学んだが、一番重要な公助が素早く行われるためには、みんなが納めた大切な税金を必要な時に正しく使い、困った時に共に支えられる社会の仕組みを作っていくことが大切だと感じた。